

プロジェクト設立希望書

作成：子ども発達支援総合センターちくたく 安本 元昭

プロジェクト名	支援のつながりプロジェクト（学齢期編）
プロジェクトの必要性	令和5年度家族への支援部会にて行ったQ-SACCSで、支援者が様々な社会資源を活用しきれていないという課題を抽出した。それらの支援機関の情報をまとめたガイドブック等は既にあるが、既存の情報提示では、各資源の活用にはつながらず、別のアプローチが必要と考えられた。 そこで各支援機関が児童や保護者に対して、どのような支援をしているか？他機関にどのようにつながるか？といった現実的な支援が見えるようなガイドブックを作成すれば、各機関の役割や機能の認識が深まり、活用のための“つなぎ”も適切に行えるようになるのでは…と考えた。 このような事例を用いたガイドブックは、年代ごとの支援機関を集めなければ、現実的な状況をまとめることが難しいため、既存の部会ではなく新規のプロジェクトが必要と考え、令和6年度は幼児期編のプロジェクトを設立し、『支援のつながりガイド（幼児期編）』を作成した。 令和7年度は「学齢期」を対象としたガイドブックを作成するため、新規プロジェクト「支援のつながりプロジェクト（学齢期編）」を立ち上げ、まずは小学生年代の事例編を作成した。 令和8年度は、引き続き中高生年代の事例編の作成を目指したい。
プロジェクトの期間	令和8年4月～令和9年3月
プロジェクトのメンバー	令和7年度のメンバーに加え、作成する事例の内容に関係する機関の方に依頼する予定 ・教育：教）学びの支援担当課、教育相談担当課 ・福祉：放課後等DS事業所、おがる、ちくたく ・若者支援：サポステ（調整中） ・虐待対応：児童相談所（調整中）
プロジェクトの計画	令和7年度は、学齢期編のテキストの中で小学生年代の事例を先行して作成した。 令和8年度は、引き続き中高生年代の事例を作成する。成人期への橋渡しの年代であることから、若者サポートステーションの方の追加を検討中。 また虐待対応事例を作成することを考え、児童相談所の方も追加したい。 ①1回目：令和8年7月頃に開催。事例の概要について検討。 ②2回目：令和8年10月頃を想定。作成した事例をPJ内で内容を検討する。 ③3回目：令和8年12月頃を想定。各事例の内容を精査し、報告できる形に整える。
期待される成果	支援者が社会資源について、より詳しく把握できることで、保護者に適切に情報提供がなされたり、支援のつながりが期待できる。特に経験の少ない支援者にとって、社会資源の情報は、自身の機関や地域について知る手掛かりとなり、自身の機関がどこまで支援を担うのか、その役割や立場を把握する一助になると考える。